

# 経済予測の達人

## わが国景気予測の草分け

### 金森 久雄 氏



\* 段階的接近法は、経済変数を大きく2部門に

も可能ですか。  
金森 そうですね。少人数、あるいは一人でもできます。

#### 有用なケインズ理論

予測に際し、経済理論は何が有用ですか。  
金森 依拠する理論は、ケインズの理論ですね。これが一番実際に役に立ちます。

経済の各分野のうち、予測にとって特に大事と考える項目は何ですか。  
金森 大事なのは、特に設備投資と財政です。設備投資は何で決まるかというところ、一つはイノベーションですね。イノベーションを実行する人材がいるかどうか非常に重要だと思いますね。

## 経済は7/8割は予測できる

集の範囲にも多少左右される面があるが、わが国における経済予測の達人を選び、紹介していきたい。

第1回は、わが国景気予測の草分けである金森久雄氏である。

れの状況を、想定して、合成して、景気を予測する。いわゆる段階的接近法と言っています。そういう方法によっているわけだ。

次予測値を収斂させていく方法。金森氏が初めて日本に紹介した。段階的接近法は通常はチームで作業するわけですが、人手をかけなくて

それが財政は、ケインズ経済学によれば、経済が過熱しているときは財政で抑制して、経済が

不況のときは財政を拡大するということを視点にして議論が成り立っているわけだ。しかし実際の政策を見ると景気が悪いときには財政を抑制して、景気がよいときには財政出動を増やすという逆になっているわけだ。特に最近では国債発行が多いから財政支出はむしろ減らすべきだという考え方が非常に強かったわけだ。それが去年の暮れまでの政策の基本でした。それが今回の夏の補正予算によって百八十度転換して、経済対策は総額14兆円でそのうち10兆円は国債を出して景気をよくしようという思い切った政策に移ったわけだ。このような政策の変化が景気に重要な影響を与えていると思うわけだ。設備投資の動きに、短期的にもイノベーションが影響するものではないか。

金森 企業が実際にどの

ような投資の計画を持つているかについては、投資の予測調査が、日銀の短観はじめいろいろありますから、予測にはそれを使うべきです。ただ、長い目で日本経済を支えてきたのはソニーやホンダなどえらい経営者が出て、思い切った投資をやったからで、（予測でも）そういう点に注目したいと思うわけです。

努力すれば経済は先

を正しく予測できると思いますか。

金森 そうですね。まあ7〜8割ぐらいは予測が可能だと思いますね。

今度のようにアメリカで急激な金融不安が起きたということでも景気が落ちる場合は、ちよつと難しいと思いますけど、通常は予測できるんじゃないですかね。

その場合、スパン（期間）はどのくらいまで見えるものでしょうか。

金森 まあ1年ぐらいで

すね。それ以上になると企業の投資も、利益率の変化などによって変わってきますから。なかなか予測はうまくいかないことが多いです。

40年不況からの回復的中

これまで長い間景気を見てこられて、一番自分の思うとおりになったの

# 確かにグローバル化で予測が難しくなったが

はいつですか。

金森 そうですね。古いんだけど昭和40年時に、私が経済企画庁内国調査課長として景気の前測をやったわけですが、これが一番当たったと思います。一般の議論は、（当時の不況は）企業が不要な設備を増やし設備が過剰なために不況になったというものでしたが、私

一人と下村治さんくらいですか、そうではなくて需要が不足しているのだと言いつけたんです。実際に政策は春の予算は非常な引き締め予算だったんですが、夏に内閣が変わり福田（赳夫）さんが蔵相になって初めて国債を発行したわけですね。それによってその後の好況がもたらされた。これを見通したことが、一番よ

く当たった予測です。それからおなじようなことは何べんもあります。40年時の前測は金森さんが執筆された「経済白書」で書かれたのですか。

金森 白書は政府の文書ですから、政府全般の意見に反対することは書けないので、（調整でもめて）白書の発表が遅れま

した。福田さんの財政政策の転換の後に予測が出たわけで、予測が経済政策に影響したとはいえないかもしれないですけど。一般には「エコノミストの予測は当たらない」と言われますが、どうしてだと思いませんか。

金森 当たっていない人が多いですけどね。やはり、設備投資に対する判断というのが弱気だからではないし、

うか。石油価格が高騰したり、（マイナスの）芽が出ると、そればかりを重視することに。実際には石油価格が上昇すると、エコカーが出たり、新しい燃料が導入されたり、イノベーションが起きてくるわけですよ。

最近ではグローバル化の進展で景気予測は以前より難しくなったと思われ

金森 それは確かにそうですね。今度の不況の原因はアメリカの金融不安にあるわけですが、それが全世界に波及したのはグローバル化の影響だと思います。しかし、日本の金融機関が受けた影響は、国際的に見ると小さい。利益は減つてもその程度は仕方がないという面があると思つわけです。今の不況は輸出産業、特に自動車産業の利益の減少が影響していますが、これは、世界的な需要の減少もありま

りませぬ、その前の円安の影響があると思います。アメリカの金融の膨張につれて、アメリカは大きな経常収支の支払い超過をしていたわけです。それによって円が安くなり、日本の自動車への輸出が伸びたわけです。それは、グローバル化の影響でもありますが、日本の政策の失敗でもあるわけです。内

需を増やさないで輸出ばかりに依存したということ、今悪くなってきたわけです。

2002年に始まる長期の景気上昇が、輸出に偏したいびつなものであったということですね。

金森 (景気上昇の過程でも) 国内の消費はあまり伸びていないですから。(企業と家計の)

分配の不平等が進み、(今回の不況における) 反動を大きくしたのではないですか。

現在は不況に落ち込んだわけですが、中国など新興国主導で世界経済の高い成長は今後も続くとの見方はどう思われますか。

金森 中国の力は強いんじゃないかと思うんですね。中国の経済は、日本の高度成長期と同じで財政を拡大し公共投資を増やしているわけです。それが今、輸出が落ち込んで

## 拡大政策で景気は上昇を続ける

だに関わらず全体の成長率を高いまま維持できているということなんです。日本がかつてやった政策をまねしていると思うんです。

新興国は、これから伸びてきて日本経済にプラスになると思いますけど、アメリカの方はもう激減をしてくるわけで、元の

ような輸出水準にはどうも戻らないでしょうね。日本が内需拡大をしなれば需要不足が続くだろうと思うんです。

株価は実体経済より大きく動く

金森 世間の関心は株価にあり、株の予測のために景気の予測をするような風潮もあります。株価と景気の関連はどう見ますか。

ますが、株の方は心理が加わって、実体より大きく動くわけですね。

今度の日本の株も過剰反応ではないかと思うんですね。ピークが(日経平均) 1万7000円だったのが600円くらいまで落ちたわけですね。これは日本の経済がそんなに悪くなつたのではなくて、株の方

が大きく反応した結果だと思えます。その後(2009年8月段階で) 1万円まで戻っているわけですが、回復基調はまだ続くと思えます。今後の景気をよりよくするには。

金森 一つは財政政策ですね。今は選挙があるわけで、それで政策がどう変わるか。今の内閣も百八十度転換して景気刺激の方向に移ったわ

けですが、また政権が変わって財政の均衡を図らなければいけないという政策をとれば、景気は悪くなってしまうと思えます。

もう一つは、設備投資で、最近新しい技術を導入したものが出てきていますので、それがどれだけ大きく発展するかと見るのが、予測の重要な前提になると思っています。

私は割合大きいんじゃないかと思うんです。自動車だけでなく新エネルギーの開発とか、薄型テレビとか、いろんなところで必死になって新しい技術の改善に取り組んでいます。その点を評価しなければいけない。

金森 雇用は先行指標です。私は改善する

金森 久雄 (かなもり・ひさお)

日本経済研究センター顧問

1948年 東京大学法学部卒業

1948年 商工省(現経済産業省)入省

1953年 経済審議庁(旧経済企画庁 現内閣府)へ出向

1958-60年 英国オックスフォード大学留学

1964-67年 経済企画庁調査局内国調査課長

1973-87年 日本経済研究センター理事長

1987-97年 同センター会長

1997年より 同センター顧問

この他、ロシア東欧貿易会ロシア東欧経済研究所所長(1998年~1994年)、中央社会保険医療協議会公益委員・会長(1989年~1997年)、環日本海経済研究所理事長(1993年~2003年)等を歴任。2000年 ロシア科学アカデミーより名誉博士号授与。

のではないかと思えます。それには政府の政策が大事で、今の拡大政策が持続をすれば景気回復も続きますが、消費税の引き上げとか、反対の政策がとられると駄目だと思えます。どうなりますかね、政策は。

海外でも政策は拡大志向に転換しています。

**金森** アメリカでも非常に大きな支出をしているからね。かつてはフリードマンの政策が世界を支配したわけですが、いまやケインズ、サミュエルソン流の政策が復活をしているわけです。日本の政策も影響されたと思いますが、何とかうまくいくと思えます。

金森さんから見て、予測の上手な人、尊敬できる人は誰ですか。

**金森** そうですね。古い人では、下村治さん、高橋亀吉さん、現在では面白いと思っているのは東大（教授）の吉川洋さん

割合にいいところを突いていると思えます。それから、嶋中雄二さん（三菱UFJ証券）。今回も3月が底でよくなるとはつきりと言っていた一人で、よく当たっていますね。